

令和元年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番号	元-事前-1						
課題名	「おかやま黒まめ」の黒マルチ栽培におけるトラクタガイダンスを利用した省力作業体系の確立						
課題の概要	「おかやま黒まめ」の黒マルチ栽培において規模拡大を容易にするため、トラクタガイダンスを利用した畦立てにより、省力で効果的な除草及び病虫害防除体系を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性	0人	2人	3人	1人	0人	3.2
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 「おかやま黒豆」の生産性、作業効率を上げることにより、規模拡大と経営改善等を目指す課題であり、岡山県として重要な課題と認識する。しかし、規模拡大、収量、生産性、省力作業体系の経営改善等の目標値が示されていないため、現状の計画では、効率性、妥当性等の判断が難しい。3年間での到達目標や出口戦略を定め研究を進めていただきたい。</p> <p>2. 期待される効果(規模拡大や所得向上)、技術の他の作物への適用について、具体性を示すべきと思う。</p> <p>3. 規模拡大には、省力化が必須であるが、コスト面からも実用的な方法の開発を期待する。</p> <p>4. 開発される技術を上手く機能させるためには、規模拡大を希望する農業者や産地拡大を考えているJA・全農等との連携が必要不可欠である。</p> <p>※なお、「労働負荷等の評価は、平成29年に最終改訂された『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』に則り、適切に対応していただきたい。」との指摘があり、対応を検討中である。</p>						

番号	元-事前-2						
課題名	水田農業における次世代への経営継承課題の解決策の確立						
課題の概要	水田農業の次世代経営者が安定的に経営継承できる環境を整えるため、経営継承事例調査から課題を明らかにし、課題解決方策を提案する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	2人	1人	0人	0人	4.3
	有効性	1人	3人	1人	1人	0人	3.7
	効率性・妥当性	1人	2人	0人	3人	0人	3.2
	総合評価	2人	1人	3人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 担い手の減少、その原因となる畦畔管理の課題解決を目指した研究で、極めて重要な喫緊の課題である。</p> <p>2. 本県水田農業の維持・発展のため、経営継承に向けた課題を明確に示すことは大変有意義であり、これまでにはない取り組みであることから、実施する価値は非常に高いと考える。</p> <p>3. 農業の後継者問題は、岡山県だけでなく、全国的な喫緊の課題であり、岡山モデルともいべきシステムを早期に確立するべきだ</p> <p>4. 次世代経営者への経営継承過程の実態解明にあたっては、十分なサンプル数を確保して、整理、類型化していただきたい。畦畔管理専門業態の新設については、生業として成り立てば、鳥獣害対策専門業態など新たな専門業にもつながり興味深い。専門業態の員数(規模)、形態、業務内容等、目標を明確にして進めていただきたい。</p> <p>5. 本課題に取り組むことが、経営継承の課題の解決につながるか明確でない。畦畔管理は経営継承に影響する問題の1つと思うが、本課題ではまず水田農業の経営継承が進まない理由を明確にし、その対策を検討する必要がある。</p> <p>6. この課題の成果について、他の作物や他産業での活用が望まれる。</p>						

番号	元-事前-3						
課題名	新樹形によるモモの低樹高・軽労化栽培技術の開発						
課題の概要	モモの新台木を用いた新樹形による低樹高化を可能にし、新規参入者が取り組みやすく、規模拡大に対応した軽労化及び早期多収栽培技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	1人	2人	0人	0人	4.2
	有効性	1人	3人	2人	0人	0人	4.2
	効率性・妥当性	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	総合評価	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
助言・指摘事項等	<p>1. 県産白桃の供給力強化には、新規就農者確保・育成と経営規模の拡大が重要であり、産地と連携する中で、早急に技術開発すべき課題である。</p> <p>2. 新樹形による栽培技術は、スマート化も導入でき、新規参入者が取り組みやすく、これからニーズは益々高まると思われる。永年作物の果樹は中長期的な視点が必要であるが、他樹種の情報等も参考に、できるだけ短期間での成果創出を期待したい。</p> <p>3. 果樹王国岡山としては、高品質なモモの生産に関する研究は、必須と考えられる。トータル的なコストの削減効果も含めて検討して欲しい。</p> <p>4. ひだ国府紅しだれ台木の軽労化栽培技術への応用研究は発展的で成果を期待する。</p> <p>5. 高品質安定生産に向けた熟度判定機等のIT機器の活用を期待する。</p>						

番号	元-事前-4						
課題名	ブドウ新品種の安定生産技術の確立						
課題の概要	県内で注目され、現地で急速に普及する可能性があるブドウ新品種の高品質安定生産技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	有効性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	総合評価	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
助言・指摘事項等	<p>1. ブドウ生産現場での要望に応えた研究課題であり、高品質安定生産技術を提供し、県のブランド力強化に貢献することを期待する。</p> <p>2. 果樹王国岡山としては、高品質なブドウの生産に関する研究は、必須と考えられる。試験期間中、ここには示されていない品種に対しても有望と思われたら、柔軟に対応してほしい</p> <p>3. ブドウの新品種の栽培技術の検討にあたっては、産地や流通関係者との連携を図り、既存品種も含めた戦略を検討すべきである。</p> <p>4. 販売サイドとも連携して試験を進めていくことが望ましい</p> <p>5. マスカットジパングは、栽培上の欠点もあるが、岡山ブランドになる可能性もあるため、課題解決に向けた試験研究の必要性がある。クイーンニーナは栽培実績があるものの、着色しにくいいため、新たな技術開発に期待する。</p>						

番号	元-事前-5						
課題名	「ピオーネ」及び「オーロラブラック」の着色安定化技術の開発						
課題の概要	岡山県の主要な黒色系2品種の簡易被覆栽培において、高品質の大きな要件である良好な着色を実現するため、気象の影響を受けにくい、着色安定化技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	有効性	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	総合評価	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 県産ブドウのブランド力を引き続き維持・発展させていくためには、黒系ブドウの着色安定対策は非常に必要なものであり、早急に技術開発すべき課題である。</p> <p>2. 地球温暖化により、高温対策は重要である。生産者によっては、生産状況は異なると思うので、各技術に要するコストや労力についても検討して欲しい。</p> <p>3. 植調剤の散布方法や気温との関係等も明らかにできれば、複数の技術による安定した着色が得られ、成果の活用・発展性が期待できる。活用にあたっては、植調剤処理、果房管理及び散水などの作業で、どのくらい所得が向上するか、経営評価まで示していただきたい。</p> <p>4. 消費者の好みを常に確認しながら成果を上げていただきたい</p> <p>5. 県北産地から出荷されるトンネル栽培のオーロラブラックは品質の良いものが多いので、県南向けに果房や果粒の大きさや新規植調剤に関する研究が進むことを望む。岡山県の推奨品種であるが、県外に広まる可能性もあるので、是非とも早い段階での成果をお願いしたい。</p>						

令和元年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番号	元-中間-1						
課題名	加温栽培「シャインマスカット」の高糖度・高品質安定生産技術の確立						
課題の概要	加温栽培の「シャインマスカット」では、糖度不足や結実不良などが問題となっている。そこで、ブランド力を高めるために、加温栽培において、高糖度で高品質な果実を安定して生産する栽培技術を確認する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	〃（阻害要因）	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	必要性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	総合評価	1人	4人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加温栽培のシャインマスカットの生産は期待が大きく、他県との競争が激しい。シャインマスカットのブランド力のさらなる強化のため、産地と連携しつつ、早急に技術開発すべき課題である。 2. 加温栽培による高糖度・高品質果実の安定生産に向けて、順調に進捗していると判断する。加温、補光、EOD加温等はコストがかかる技術であることから、高品質安定生産とのバランスを考慮して最終成果に繋げていただきたい。 3. 栽培環境・生産状況が異なる生産者・地域ごとの効率的な対策技術を明示して欲しい。 4. 販売面も並行して取り組みを強化し、成果が確実になった段階で販売促進につなげられるように、関係機関の連携をお願いしたい。 5. 岡山県は早期出荷だけにこだわらず、あくまでも高品質生産を目指すべき。高品質になる樹の条件を見つけた意義は評価できる。 						

注意事項 事前評価と同じ

令和元年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	元-事後-1						
課題名	大規模水田作経営に対応した効率的な麦作体系の確立						
課題の概要	県内の大規模麦作の経営管理手法を整理し、地域や規模別に求められる技術とその運営方法を明らかにする。同時に、規模拡大を可能にする麦作圃場管理技術を確立する。また、経営条件に適した栽培技術、運営方法による効率的な麦作モデルを策定する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性（効果）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	有効性（目的以外の成果）	0人	0人	6人	0人	0人	3.0
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性（計画）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	0人	3人	1人	2人	0人	3.2
	総合評価	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
助言・指摘事項等	<p>1.排水対策は重要な課題である。水田の裏作として麦が作付けが可能な地域は限られており、西日本地域に特徴的な作付け体系として成果の活用が期待できる。</p> <p>2.農業機械等の資金投入が必要なことから、経営評価の情報も加え、成果の活用を図っていただきたい。</p> <p>3.収量のデータなども示して欲しい。</p> <p>4.大規模水田作経営に対応した効率的な麦作体系において、播種時期、水田条件、使用する機械の種類を組み合わせるところまでは研究が進んだものと考えられる。今後、機械導入費用や収量性データ収集を行い、成果の活用を望む。</p> <p>5.確立された排水対策や播種方法の技術を普及させるためには、規模拡大を希望する農業者や産地拡大を進めたいJA等関係機関との連携強化が必要不可欠である。</p>						

番号	元-事後-2						
課題名	主食用米の飼料用栽培に特化した低コスト多収施肥技術の確立						
課題の概要	飼料用米の生産拡大、農家所得の向上のため、本来主食用品種である「中生新千本」と「アケボノ」を対象に、飼料用米生産に特化した低コスト多収施肥技術を確立する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3. 3
	有効性（効果）	0 人	4 人	2 人	0 人	0 人	3. 7
	有効性（目的以外の成果）	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3. 2
	効率性・妥当性（費用対効果）	0 人	4 人	2 人	0 人	0 人	3. 7
	効率性・妥当性（計画）	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3. 3
	成果の活用・発展性	0 人	2 人	3 人	1 人	0 人	3. 2
	総合評価	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	3. 5
助言・指摘事項等	<p>1. 飼料用米の低コスト施肥技術による農家の所得向上効果を実証した課題である。施肥技術や疎植栽培技術などにより収量に差があることが示されており、情報を整理して成果の活用に繋げていただきたい。</p> <p>2. 低コストで多収可能な全量基肥施肥技術の確立に目途が立ったことを高く評価したい。</p> <p>3. 飼料用米栽培面積のうち、「中生新千本」、「アケボノ」の作付面積は非常に多いことから、確立された低コスト多収施肥技術の普及に期待する。</p> <p>4. 本成果により国産飼料を低コストで供給できれば、畜産への貢献度は非常に大きい。</p>						

番号	元-事後-3						
課題名	温暖化に起因する果樹類生育障害の対策技術の現地実証						
課題の概要	気象変動に伴う果樹類の果肉障害や凍害被害が発生しているため、これらの対策技術として開発した機能性果実袋や凍害防止資材について、現地の実証試験を通じて、更に改良を進め、効果の高い対策技術を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性（効果）	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性（目的以外の成果）	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	効率性・妥当性（費用対効果）	3人	1人	2人	0人	0人	4.2
	効率性・妥当性（計画）	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	成果の活用・発展性	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
	総合評価	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
助言・指摘事項等	<p>1. ナシ用の機能性果実袋、凍害防止資材ともに、試験販売まで到達し、実用化の目処を立てたことを評価する。</p> <p>2. ナシだけでなく、他の果樹にも応用が期待でき、今後の発展に期待したい。</p> <p>3. 成果が明確であり、今後、技術移転、実用化、技術の普及を進めてほしい。</p> <p>4. 温暖化に起因する生育障害対策として、重要な試験研究であり、資材製造に関わる会社が参画したことで、実用化が加速された。今後も官民一体での技術の普及が望まれる。さらに、他の果樹への応用、発展性に期待する。</p>						

番号	元-事後-4						
課題名	準高冷地での「オーロラブラック、シャインマスカット」生産技術の開発						
課題の概要	簡易被覆栽培の「オーロラブラック」と「シャインマスカット」について、準高冷地における成熟特性を解明し、それに適した高品質生産技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性(効果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性(目的以外の成果)	0人	0人	6人	0人	0人	3.0
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	総合評価	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 準高冷地における高品質ブドウ生産への道筋ができた。この技術の普及を進めて欲しい</p> <p>2. 準高冷地の気候を活かした栽培技術を確立し、加えて所得向上につながることを明らかにしたことは評価できる。今後も高品質安定生産のための技術開発に取り組み、さらなる発展を期待したい。</p> <p>3. 県内のブドウがない時期に収穫できる優位性を生かし、県北部での生産技術の普及・定着を進めていただきたい。</p> <p>4. 準高冷地特有の成熟特性を活かしたブドウ生産は、有利販売が期待できるため、現在試験中の「シャインマスカット」の適地判定や、糖度をさらに高めるための技術開発が急がれる。</p> <p>5. 蒜山地域では、生育時期が遅く、収穫適期が短い欠点に不安が残るため、収穫適期を伸ばす技術開発も期待する。また、近年の天候不順では、蒜山地域での日照不足も心配されるため、対策技術開発に期待したい。</p> <p>頑張ってください。</p>						

番号	元-事後-5						
課題名	県産果実の“美味しさの見える化”によるブランド強化						
課題の概要	味覚センサー等を用いて県産果実の味の特長や美味しさを、香りや食感も含めて見える化する手法を確立すると共に、味の特長のPR方法を提案する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	総合評価	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 今回得られた成果を活用して、県産果実の推進を進めてほしい。</p> <p>2. 県産果実の味の特徴が見える化し、外国版を含めたPR資料、素材集の作成と精力的に成果を創出したことは評価できる。最終的な成果の活用効果は、消費者がどのように受け止めたか、販売促進につながったかであることから、フォローアップもお願いしたい。</p> <p>3. 研究と販売を一体的に考え、PR手法に生かすことも必要と考える</p> <p>4. 作成したPR資料、素材集を活用して消費者に味の特長をアピールするためには、農業、小売業、観光業等の関係機関との連携強化が必要不可欠である。</p> <p>5. 味香り戦略研究所との連携を図った優れた研究成果と評価する。岡山県産果実の「美味しさの見える化」は今後の戦略に役立つものと確信する。糖度、食味以上に風味(香りを含む)の研究は重要で、消費者目線の研究であり、今後の品種開発にも活かせるものと考え。ただ、消費者に対しては、視覚的なパンフレットだけではアピール力が弱いため、パンフレットから実際の香りを発する様な工夫があっても良い。</p>						

番号	元-事後-6						
課題名	枝豆の優良系統の選抜と優良系統種子の安定生産						
課題の概要	莢の茶しみ症を起こすダイズモザイクウイルス抵抗性で、出荷期間を拡大できる早生の枝豆用品種を育成する。また、「岡山系統1号」の安定生産に向け、健全で純正な原原種を産地に供給し、産地育成とブランディングを支援する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	2人	1人	3人	0人	0人	3.8
	有効性(効果)	2人	1人	3人	0人	0人	3.8
	有効性(目的以外の成果)	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(費用対効果)	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性(計画)	2人	1人	3人	0人	0人	3.8
	成果の活用・発展性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	総合評価	3人	1人	2人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. ニーズに対応した黒大豆の新品種を育成し、また優良系統種子を供給するという目標を達成したことを評価する。新品種はリレー出荷や省力化に向けて今後の発展を期待したい。</p> <p>2. 「岡山系統1号」と同等の時期に生産できる茶しみ症が発生しない美味しい系統を育成して欲しい。</p> <p>3. 黒大豆新品種「岡山SYB1号」の育成は、岡山県産黒大豆のブランド化に大きく寄与することができる。育成した新品種を普及拡大させるためには、規模拡大を希望する農業者や産地拡大を推進するJA等との連携強化が必要不可欠である。</p> <p>4. 岡山県が県独自の品種開発と原原種生産・種子供給を行うことは農家に希望をもたらす。また、新品種が枝豆出荷期間の拡大や省力低コストにつながるメリットは大きい。今後のさらなる研究や品種育成を期待したい。</p>						

番号	元-事後-7						
課題名	ブランディングに向けた枝豆の味分析と鮮度保持技術の開発						
課題の概要	黒大豆枝豆のブランド力強化のため、味の評価方法や特徴を明らかにすると共に、それに基づき鮮度保持技術の開発や、優良系統の味の評価を実施する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	総合評価	2人	0人	4人	0人	0人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1. 枝豆の鮮度保持条件を解明し、MA包装資材と急速冷凍技術が食味成分の低下抑制に有効であることを明らかにした成果である。また、MA資材は収穫後の重量減少も抑制でき、出荷量増加により、収益向上にもつながる成果として、今後のブランド力強化と消費拡大を期待したい。</p> <p>2. 県産枝豆の評価を上げるには、全生産現場での鮮度保持技術の普及を進めることが重要である。</p> <p>3. 現在進めている「味の見える化」を、さらに発展させてほしい。</p> <p>4. 消費者および生産者からもニーズが高いため、有利販売、イメージアップに向けて、確立した味の評価手法や鮮度保持技術の早期普及が大いに期待される。</p> <p>5. 枝豆のブランド化に向けて、農作業の見直しが必要であることや、新品種の特性や食味成分分析までできたことは評価できる。新品種で出荷時期も伸ばせるため、それを活かしたブランディングの推進を期待する。</p>						

番号	元-事後-8						
課題名	「くだもの王国おかやま」を彩るイチゴ新品種の育成						
課題の概要	「モモの香りがするイチゴ」等の新たな特性を持ったイチゴ品種を育成し、県独自品種の果物を周年供給することで、「くだもの王国おかやま」のブランド推進を図る。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	1人	4人	0人	0人	3.2
	有効性（効果）	0人	1人	4人	0人	0人	3.2
	有効性（目的以外の成果）	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性（計画）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	総合評価	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
助言・指摘事項等	<p>1. 品種育成は大変であるが、要望を満たした品種の育成を期待する。</p> <p>2. 育成途中の系統選抜の継続とともに、栽培のしやすさや加工用など、生食以外も対象にすることもご検討いただきたい。</p> <p>3. 糖度の高いイチゴや桃の香りがするイチゴは、非常に興味深いので、後継課題の成果を期待したい。</p> <p>4. 継続的に品種育成を進めることにより、新しいブランドイチゴの開発に期待する。</p> <p>5. 「モモの香りがするイチゴ」等の他県にはない魅力を備えた岡山発の独自品種が早期に品種登録され、県内産地のブランド化が進むことを期待する。</p> <p>6. 岡山県は栽培面積が非常に少ないので、岡山県の特産として名高い「桃」「葡萄」に関連した「桃薫」に近い品種を開発を続けていただきたい。また、全国で少量生産されている白い苺のブランド戦略を参考にしながら、本県でも開発後の戦略について、検討しておくことが必要である。</p>						

番号	元-事後-9						
課題名	地下部環境の改善によるナスの日焼け果防止技術の確立						
課題の概要	施設栽培及び露地栽培のナス生産量の減少要因である日焼け果に対し、地下部環境の改善を中心に低コストで簡便な防止技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	有効性(目的以外の成果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	1人	0人	5人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	総合評価	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
助言・指摘事項等	<p>1. ソルビタン脂肪酸エステル剤の農薬登録を早急に働きかけて、生産者が利用しやすい情報を発信して欲しい</p> <p>2. ナスの日焼け果の発生防止技術で、施設では有機物施用、灌水、薬剤散布を用いた栽培技術により日焼け果発生を軽減し、露地では整枝管理により日焼け果だけでなく擦れ果が減じ秀品率が上がることを明らかにした点は成果である。</p> <p>3. 展着剤の日焼け果軽減メカニズムを解明できれば、より効果的な日焼け果の軽減、防止技術の開発にもつながる可能性があるので、ご検討いただきたい。</p> <p>4. この技術導入によって販売不良品をなくすとともに、収益アップにつながり、ナスのブランド力のさらなる向上をめざしてもらいたい</p> <p>5. 生産者の所得向上と県産ナスのブランド力の向上が期待できる大変有意義な試験研究成果が得られている。</p> <p>6. 生産現場からの要望なので、研究成果はスムーズに普及すると期待できる。特に施設栽培では経費が掛かる分、秀品率を高めるこの技術は経営改善に寄与できる。</p>						

番号	元-事後-10						
課題名	ブランド力向上を目指したキャベツの良食味安定生産のための施肥法の確立						
課題の概要	県南部の秋冬期に収穫されるキャベツ栽培で、気象条件に左右されにくく良食味で安定生産が可能となる施肥方法を確立する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3. 3
	有効性（効果）	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3. 3
	有効性（目的以外の成果）	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3. 3
	効率性・妥当性（費用対効果）	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	3. 5
	効率性・妥当性（計画）	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3. 2
	成果の活用・発展性	0 人	5 人	1 人	0 人	0 人	3. 8
	総合評価	0 人	4 人	2 人	0 人	0 人	3. 7
助言・指摘事項等	<p>1. 良食味キャベツ生産の収穫条件及びブランド牛総甘藍のアピールポイントを明らかにした成果である。すでに、成果を活用して牛窓甘藍として出荷されており、評価できる。</p> <p>2. 一定の成果が得られたと考えられるので、ブランド力向上に向けての生産者への普及を進めて欲しい。</p> <p>3. キャベツのみならず、他の野菜への応用が望まれる</p> <p>4. キャベツの味の良さを消費者にアピールするためには、さらに産地や流通関係者との連携強化を図り、PR手法の工夫が必要である。</p> <p>5. キャベツは家庭調理向けと業務用向けとカット野菜などの加工用向けの需要と多岐にわたる重要な品目であり、全国的に生産が増えていることから、量より質の向上につながる本成果は、差別化を図る点で、ブランド力向上に貢献できる。</p>						

番号	元-事後-11						
課題名	準高冷地ダイコンの多様なニーズに対応した品種選定と良品生産技術の確立						
課題の概要	生食用のみでなく、宅配や加工用など多様なニーズに対応した準高冷地に適するダイコン品種を選定するとともに、それに適した良品生産技術を確立し、産地の維持・発展に資する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	有効性（効果）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	有効性（目的以外の成果）	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性（計画）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	総合評価	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
助言・指摘事項等	<p>1. 準高冷地の栽培環境に適する品種を選定し、また、生産性の高い栽培技術に取り組んだ課題であり、農家の活用を意識して、一斉収穫に適する品種「NIKURA」、多収栽培可能なミニダイコン「四季姫2号」を選定したことを評価する。成果の活用による蒜山大根ブランドの復活を期待したい。</p> <p>2. 蒜山大根のブランド復活に向けて、今回の成果を早急に普及して欲しい。</p> <p>3. 現地で注目されているダイコンの新品種と生産技術の確立、普及にあたっては、産地や流通関係者との連携を図り、販売戦略を含めた検討を行うべきである。</p> <p>4. 生産者、消費者のニーズに加え、持続可能な農業という視点からのアプローチがあってもいいのではないか。</p> <p>5. 産地では高齢化による収穫労力不足が顕著だが、夏秋の大根需要に対応できるのは蒜山地域しかないため、収穫作業を外部に委託しており、一斉収穫に対応できる品種選定と栽培技術についての本成果が、産地の活性化に役立つことを期待する。</p>						